



Title	中国語の「B就(jiu)是(shi)A」の形式を持つコンピュータ文について
Author(s)	張, 雨辰
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2021, 2020, p. 21-30
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/84971
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

中国語の「B 就 (jiu) 是 (shi) A」の形式を持つコピュラ文について

張雨辰

1. 研究背景

中国語学における「A 是 (shi) B」の形式を持つコピュラ文の研究は、A と B の入れ替えの可能性に注目して研究されてきた。例えば、杉村 (2002) では A と B の入れ替えができる文を「同一関係」のコピュラ文、A と B の入れ替えができない文を「包摂関係」のコピュラ文と呼んでいる。

一方、日本語学における「A は B だ」の形式を持つコピュラ文の研究は、A と B の入れ替えの可能性だけではなく、名詞句 A と B の性質にも注目し、コピュラ文を6種類に分類している。例えば、西山 (2003) に従うと、コピュラ文には、措定文、指定文、同定文、同一性文、定義文と提示文がある。日本語学におけるコピュラ文の分類は中国語学より4つも多い。

そこで、張 (2018) は中国語学では、A と B の入れ替えの可能性の観点だけからコピュラ文を分類するのは不十分であることを示した。張 (2018) では、主に問題にしているのは、中国語の同定文と指定文の区別である。中国語では「B 是 A」¹の形式を持つコピュラ文は指定を求める文脈では使われるが、同定を求める文脈では使わないことを指摘した。さらに、「B 是 A」の形式を持つコピュラ文を指定文と呼び、副詞「就 (jiu)」を含む「B 就是 A」の形式を持つコピュラ文を同定文と呼んでいる。しかし、張 (2018) ではなぜ副詞「就」を挿入することで指定文が同定文の意味に変わるのか、その仕組みについては述べていない。

本論文では、中国語の「B 就是 A」の形式を持つ文は同定を求める文脈では使われるが、日本語学で言われる「同定文」とは異なることを示していく。

2. 先行研究と問題の所在

本節では日本語学と中国語学におけるコピュラ文の分類、及び特徴を紹介する。

2.1 日本語のコピュラ文の分類

西山 (2003) はコピュラ文には、措定文、指定文、同定文、同一性文、定義文と提示文があると述べている。ここでは、措定文、指定文と同定文を取り上げて紹介する。

¹ 本論文では「A 是 B」、「B 是 A」、「A は B だ」、「B が A だ」の形式を持つコピュラ文は「B」が文の焦点であると規定する。

措定文：

西山 (2003) は、措定文は「A は B だ」の形式を持ち、「A で指示される指示対象について、B で表示する属性を返す。」と述べている。措定文の典型的な例は以下のようなものであると述べている。

- (1) モーツァルトは天才だ。
- (2) 鯨は哺乳動物だ。
- (3) あいつは馬鹿だ。

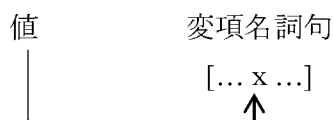
(西山 2003 : 123)

例えば、(1) では、「モーツァルト」が指示的名詞句で、モーツァルトという人物を指す。(1) の意味は「モーツァルト」人物について天才である、と叙述する。述語の「天才」の方は世界の中の対象を指示しているのではなく、属性、性質を表しており、非指示的名詞句である。西山 (2003) は、名詞句 A を「指示的名詞句」、名詞句 B を「叙述的名詞句」と呼んでいる。

指定文：

指定文は「B が A だ」の形式を持っており、「A という 1 項述語を満足する値をさがし、それを B によって指定 (specify) する」のような文を規定する。「B が A だ」においては、A が変項名詞句で、「x が A である」という命題関数を表しており、指示性を持っていない名詞句である。B が変項名詞句の変項を埋める値である。図示すると以下のようなになる。

(4) a. 太郎 が 学生です 「B が A だ」



b. 学生は太郎です。 「A は B だ」

(4) では「学生」という名詞句が変項 x を有する変項名詞句にあたり、「太郎」という名詞句がその変項 x を埋める値となる。また、(4b) で示しているように日本語の指定文は A と B を入れ替え、「A は B だ」という形にしても、その意味は変わらない。西山は「A は B だ」の形式を持つ指定文を倒置指定文と呼ぶ。

同定文：

同定文「BがAだ」を「AはBという特徴記述を満たす「もの」であると述べることによって、Aの指示対象を他から識別して認定する」と定義している。以下が同定文の例である。

(5) 山田村長の次男がこいつだ。 「BがAだ」

(6) 結婚し多少お金も貯まると欲しくなるのが家だ。

(7) 涙なしにドイツ語をマスターできるのが本書です。

(西山 2003:168)

例えば、(5)は「BがAだ」の形式を持っており、Aが指示的名詞句であり、BがAを同定するための特徴記述である²。また、指定文の場合と同様に、同定文においても、AとBを入れ替え、意味が変わることなく「AはBだ」の形にすることができ、倒置同定文と呼ばれる。以下のような例である。

(8) こいつは山田村長の次男だ。 「AはBだ」

(9) 家は、結婚し多少お金も貯まると欲しくなるものだ。

(10) 本書は、涙なしにドイツ語をマスターできるものです。

2.2 中国語学におけるコピュラ文の研究

中国語学では、「A是B」の形式を持つコピュラ文におけるAとBの入れ替えの可能性についての研究が主である。杉村(2002)は、AとBが同一関係の場合ではAとBの入れ替えが可能であるが、AとBが集合と構成素の関係の場合では入れ替えが不可能であると述べている。以下の例である。

(11) a. 張老三 就 是 那個人 A=B

張老三 jiu COP その人

張老三があの人のだ。

b. 那個人 就 是 張老三 B=A

その人 jiu COP 張老三

あの人は張老三だ。

² 熊本(1995)によると、同定文「BがAだ」のBは指示的名詞句であるが、その指示対象はAを同定できる特徴記述という抽象的なものであると述べている。

(12) a. 張老三 就是 那 几封 匿名 信的 作者 A=B
 張老三 jiu COP その CL 匿名 手紙 GEN 書き手
 張老三がそれらの匿名手紙の書き手だ。

b. 那 几封 匿名 信的 作者 就是 張老三 B=A
 その CL 匿名 手紙 GEN 書き手 jiu COP 張老三
 それらの匿名手紙の書き手は張老三だ。

(13) a. 張老三 是 農民 A∈B
 張老三 COP 農民
 張老三は農民です。

b. *農民 是 張老三 *B∈A
 農民 COP 張老三
 農民は張老三です。 (杉村 2002:15 グロスと日本語訳は筆者による)

例えば、(11) と (12) では、コピュラ動詞「是」の前後の名詞句 A と B が同一である (すなわち、A=B)。この場合は、b 文で示すように A と B の入れ替えができる。それと対照的に、(13) では、名詞句 A は B が表す属性の集合に属する (すなわち、A∈B)。この場合では (13b) で示すように A と B の入れ替えが不可能である。また、(11) と (12) の区別について、(11b) における名詞句 B 「那个人 (その人)」は直示的な機能しか持っていないが、(12b) における名詞句 B 「那几封匿名信的作者 (それらの匿名手紙の書き手)」は、直示的な機能と一定の説明機能両方とも持っている述べている。

3. 中国語のコピュラ文の特徴

本節では中国語のコピュラ文の特徴を紹介する上で、「B 就是 A」の形式をもつコピュラ文の意味を明らかにする。

3.1 同定文と指定文の区別

杉村 (2002) の (11) と (12) を詳しく見るとコピュラ動詞「是」の前に「就」という副詞がある。中国語コピュラ文の研究では、この副詞「就」はよく例文に出てくるが、その機能と意味について、何の言及もされていないのが現状である。

ほとんどの場合は、「(就)」のように括弧で括られ、「就」の有無が、文の意味や機能に影響がないように思わせる。例えば、西 (2006) は、西山 (2003) に従い中国語のコピュラ文を分類し、中国語の同定文も「倒置」ができると述べている。以下の (14c) が同定文で、(14c') が倒置同定文である。

- (14) a. A: うちの坊ちゃんが通りませんでしたか?
 b. B: お前のところの坊ちゃんって誰のことだ?

c. A: 安昌門 外 的 王家 少爺 (就) 是 我家 少爺 「B(就) 是 A」
 安昌門 外 の 王家 坊ちゃん jiu COP うち 坊ちゃん
 ‘安昌門外の王家の坊ちゃんがうちの坊ちゃんです。’

c'. A: 我家 少爺 (就) 是 安昌門 外 的 王家 少爺 「A(就) 是 B」
 うち 坊ちゃん jiu COP 安昌門 外 の 王家 坊ちゃん
 ‘うちの坊ちゃんは安昌門外の王家の坊ちゃんです。’

西 (2006:298³)

(14) は同定を求める文脈である。西 (2006) では、(14c) と (14c') のどちらもコピュラ動詞「是」の前に、括弧に括られた「就」を置いている。2節で挙げた 杉村 (2006) の(11) と (12) の例文も似ており、コピュラの「是」の前に「就」を置いているが、この「就」の意味や機能について何も言及されていない。このように、中国語コピュラ文における研究では、「就」の機能が軽視されてきた。

そこで、張 (2018) では、西山 (2003) の日本語コピュラ文の分類に従って中国語のコピュラ文を分類し、中国語の (倒置) 同定文、(倒置) 指定文は (15) のような形式を持っていると指摘した。

(15)

(倒置) 同定文	B 就是 A	A (就) 是 B
(倒置) 指定文	B 是 A	A 是 B

(15) の表で注意されたいのは、焦点 B が文頭にある同定文の場合では、「就」が義務的となり、焦点 B が文末にある倒置同定文の場合では、「就」が任意的となる。具体例を挙げて説明しよう。

(15)(家族とおしゃべりをしていると、王さんという人が話題にのぼった。王さんとはいったい誰なのか分からず、家族に尋ねる。)

- a. A: 老王是谁? (王さんって誰?)

³ 西 (2006) では同定文例として、それぞれ (14c)、(14c') を挙げた。それらの文は典型的な同定文ではなく、A は自分が王家の人だと主張する意味を持つ文であるという意見もあるが、2節で挙げた (12) の例や、後で挙げる同定文で分かるように、中国語では同定文の文脈で使われる「B 就是 A」の形式を持つ文は「就」が義務的となる。

b. B: 隔壁 烤肉店 的 老板 *(就) 是 老王 「B 就是A」
 隣 焼肉店 GEN オーナー jiu COP 王さん
 ‘隣の焼肉屋のオーナーが王さんです’

b'. B: 老王 (就) 是 隔壁 烤肉店 的 老板 「A(就) 是B」
 王さん jiu COP 隣 焼肉店 GEN オーナー
 ‘王さんは隣の焼肉屋のオーナーです’

(張 2018:19)

(15) の文脈は、「王さんは一体誰なのか？」という「王さん」の同定を求める文脈である。(15b) は焦点 B が文頭にあり、「就」が義務的となる。(15b') は焦点 B が文末にあり、「就」が任意的となる。同定文の場合では焦点 A が指示的であり、「王さん」という人を指す。焦点 B が指示的名詞句であり、その指示対象は人ではなく、王さんという人がもつ「特徴」(隣の焼肉屋のオーナー) という抽象的なものである。

また、(15b) では「就」がないと、同定文ではなく、指定文の文脈で使われる。以下のような例である。

(16) (隣の焼肉屋のオーナー、次郎の担任の先生、山田家の執事の中で、)

a. A: 谁是老王? (誰が王さんですか?)

b. B: 隔壁 烤肉店 的 老板 (*就) 是 老王 「B 是A」
 隣 焼肉店 GEN オーナー jiu COP 王さん
 ‘隣の焼肉屋のオーナーが王さんです。’

b'. B: 老王 (*就) 是 隔壁 烤肉店 的 老板
 王さん jiu COP 隣 焼肉店 GEN オーナー
 ‘王さんは隣の焼肉屋のオーナーです。’

張 (2018:22)

(16) は指定を求める文脈である。「隣の焼肉屋のオーナー、次郎の担任の先生、山田家の執事」という三つの要素からなる集合の中において、「どれが王さんか」という質問に対して、指定文 (16b) か倒置指定文 (16b') で答える。(16) では「就」を挿入することはできないことを確認されたい。

3.2 副詞「就」の意味と機能

前節では、張 (2018) において示されたとおり中国語の同定文と指定文は副詞「就」を入れることで区別されるということを確認した。本節では、このような区別は何を意味しているのかを見ていく。

西山 (2003) によると、日本語の同定文 (15) と 指定文 (16) の区別は、名詞句の性質によるものである。具体的には、同定文「BがAだ」、及び倒置同定文「AはBだ」では、AとB両方とも指示的名詞句である。AとBの関係は、BがAの指示対象を他から識別して認定するための、Aが満たす「特徴記述」である。一方で、指定文「BがAだ」、倒置指定文「AはBだ」では、Aが指示性を持っていない「変項名詞句」である。AとBの関係はBがAの変項を埋める値である。(倒置) 同定文、(倒置) 指定文におけるAとBの関係を中国語コピュラ文に当てはめると (17) のようになる。

(17)

	A	B
同定文 「B 就 是 A」	指示的名詞句	指示的名詞句 Aを同定するための「特徴記述」
指定文 「B 是 A」	変項名詞句	値

また、3.1 節では見てきた、中国語の指定文と同定文は「就」の有無によって決められる。例えば、同定を求める (15) の文脈では「王さんって誰？」という質問に対して、「就」がない「隔壁烤肉店的老板是老王」(隣の焼肉屋のオーナーが王さんです) と答えたら不適切になる。なぜなら、「隔壁烤肉店的老板是老王」という文は指定文であり、「王さん」の同定を求める文脈では使えないからである。逆に指定を求める (16) の文脈では「就」がある「隔壁烤肉店的老板就是老王」(隣の焼肉屋のオーナーが王さんです) の文も不適切である。

ここでは西山 (2003) における指定文と同定文の定義を思い出そう。同定文では名詞句 A と B は、「A」が「B」という特徴記述を満たすものであると述べることによって「A」を他から識別して認定する。それと対照的に、指定文においては、A が変項 x を含む「変項名詞句」であり、B が変項 x を埋める値である。また、中国語では指定文に「就」を加えると同定文になる。以上を踏まえ、中国語の指定文における A と B の関係は「就」を加えることによって、同定文における A と B の関係に変えることができるという結論になるだろう。しかし、中国語の「就」は名詞句の性質、及び名詞句間の変える機能があるか否かが疑問になる。次の節では、「就」の意味と機能について検討する。

3.3. 副詞「就」の機能

「就」の意味と機能についての研究は、Biq (1988), Hole (2006), Tsai (2017), Liu (2017) などがある。これらの研究は、Biq (1988), Hole (2006) では語用論の観点、Tsai (2017), Liu (2017) は形式意味論の観点からの研究である。「就」の焦点との関係について検討するのが主である。

「就」の機能については、Liu (2017) を取り上げ紹介する。Liu (2017) では、「就」の基本的な意味は ONLY_{weak} であると仮定している。しかし、ONLY_{weak} 意味は常に現れるのではなく、焦点が「就」より前にある場合では、「就」には尺度の前提 (Scalar Presupposition) の意味が現れる。Liu (2017) に従うと同定文の「B 就是 A」は、焦点 B が「就」より前に現れるため、「就」の基本の意味が空虚 (vacuous) になり、尺度の前提の意味が現れる。以下では具体例を挙げて説明する。(18) は「就」の尺度の意味であり、「就」の associate は尺度 R において他の alternative より低い位置にあるという意味を表している。

(18) Scalar Presupposition of *jiu*

$$\forall x \in Alt([\text{Associate}])[x \neq [\text{Associate}] \rightarrow [\text{Associate}] <_R x] \quad \text{Liu (2017:74)}$$

(18) の「就」の意味を同定文「B 就是 A」の形式をもつ「隔壁烤肉店的老板就是老王」(隣の焼肉屋のオーナーが王さんです) に当てはめてみると (19) のようになる。

(19) 隣の焼肉屋のオーナー 就是 王さん

$Alt_{atom}([\text{隣の焼肉屋のオーナー}]) = \{\text{うちの息子のクラスメートの太郎のお父さん、あの小太りでよくここら辺を散歩する人、お母さんの同級生の人、…}\}$

$C_{atom} = \{\text{うちの息子のクラスメートの太郎のお父さんが王さんです。あの小太りのよくここら辺を散歩する人が王さんです。お母さんの同級生の人が王さんです。}\}$

$\text{Assertion of } jiu \text{ applied} = \forall x \in Alt([\text{Associate}])[x \neq [\text{Associate}] \rightarrow [\text{Associate}] <_R x]$


(19) は「B 就是 A」の形式を持っており、「隣の焼肉屋のオーナー」が焦点 B で、「王さん」が A である。焦点 B の alternative の集合を形成する候補者は、話し手が王さんについて知っている各特徴である。

例えば、(19) の場合は、話し手が王さんという人について、彼はうちの息子のクラスメートの太郎のお父さんという特徴、小太りでよくここら辺を散歩するという特徴、お母さんの同級生という特徴、などなどの特徴を持っていると知っている。(18) の「就」の機能は、「王さんって誰？」という質問に対して、話し手が自分が一番思い出しやすい、あるいは聞き手が一番分かりやすい特徴を選ぶ。

3.4 同定文「B 就是 A」は「B が A だ」と異なる

(19) では中国語の「B 就是 A」の形式をもつ同定文の具体的な意味を検討した。「就」の挿入は話し手が選んだ associate は尺度 R においてより低い位置にあるという意味を実現する。ここで疑問に思うのは、「就」を「B 是 A」に挿入することで、なぜ指定文の意味が同定文の意味に変わるのか。3.2 節で見えてきたが、指定文と同定文の区別は、名詞句 A と B の性質によるものである。指定文「B 是 A」では A が変項名詞句であり、B が変項を埋める値である。同定文「B 就是 A」では A が指示的名詞句であり、B が A を同定するための特徴記述である。しかし、(19) で見てきたように Liu (2017) などの研究によると、副詞「就」は指定文における A と B の性質を変える機能がないようである。なぜなら同定文「B 就是 A」における「就」は (18) で示した尺度の前提の機能しかないのだからである。このことを以下のように図示する。

(20)

	A と B の関係
指定文「B 是 A」	[...x...] ← B A 埋める
 * 「就」を挿入する	
同定文「B 就是 A」	B が A を同定するための「特徴記述」

(20) で示すように「就」の機能から見ると指定文「B 是 A」に「就」を挿入することで同定文の意味に変えることができないことが分かる。従って、同定を求める文脈で使われる「B 就是 A」をどのように位置付けるのかが問題になる。

4. 今後の課題

岸本 (2012) では、small clause の後項は一項述語であり、日本語の (倒置) 同定文「B が A だ」、または「A は B だ」における「A」と「B」両方とも一項述語ではないため、日本語の同定文は small clause に現れることができないと述べている。以下の (21) で示している⁴。

(21) a.* 「あそこに立っている人が先ほど話題になったジョンに」聞こえる。

b.* 「先ほど話題になったジョンがあそこ立っている人に」聞こえる。

⁴ 同定文と対照的に指定文「B が A だ」に置いては、A が変項名詞句で、一項述語であるため、small clause に現れることができる。

(i) 「たばこの火の不始末が今回の火事の原因に」聞こえる。

中国語の同定文/指定文は *small clause* においてどのような振る舞いにあるか詳しく見る必要がある。

参考文献

- Cheng, Lisa L.-S, C.-T. James Huang (1996) Two Types of Donkey Sentences. *Natural Language Semantics*4:121-163.
- C.-Y. Tsai (2017) Preverbal Number Phrases in Mandarin and the Scalar Reasoning of *jiu*. *Proceeding of the 34th West Coast Conference on Formal Linguistics*555-561
- 熊本千明 (1995) 「同定文の諸特徴」 『佐賀大学教養部研究紀要』 27:147-164
- 熊本千明 (2013) 「帰属用法と *Whoever* 節の機能」 『名詞句の世界』 341-368 ひつじ書房.
- Lin, J.-W (2014) *Wh-Expressions in Mandarin Chinese*. In:C. T. James Huang, Y. H. Audrey and Li, Andrew Simpson (eds.) *The Handbook of Chinese Linguistics*180-207.New Jersey: Wiley-Blackwell.
- Mingming, Liu (2016) Varieties of alternatives: Mandarin focus particles. *Linguist and Philos*40:61-95
- 西山佑司 (2003) 『日本語の名詞句の意味論と語用論』 東京:ひつじ書房.
- 王亚新 (1999) 「中国語の名詞述語文における「指定」機能」 『東洋大学紀要 教養課程篇』 38:203-216.
- 杉村博文 (2002) 「论现代汉语特指疑问判断句 (現代中国語の コピュラ文における *wh* 疑問文)」 『中国语文』 1:114-21
- 張雨辰 (2018) 「「就 (*jiu*)」を伴った同定文から見る中国語のコピュラ文」 修士論文, 大阪大学